

## 地域密着型自主防災訓練の概況

汁谷第一自主防災会会長 都築 民俊

### 【はじめに】

私たち、汁谷第一自治会には、地域に以前から住んでいる住民と、新しく建設された高層マンションの住民がふれあえる場として、春には「自治会ふれあいまつり」、夏には「盆踊り（近隣 8 町内会合同）」、秋は「運動会（富士見台学区）」、「自主防災訓練」、冬は「もちつき大会」などの、様々な行事がある。『住民どうし挨拶のできる町』『汁谷に住んでよかったと言える町』を目指して、自治会活動に取り組んでいる。

自主防災訓練は、汁谷第一自治会の住民全世帯を対象として、平成 18 年度より、安否確認を主テーマに「地域密着型訓練」を行っており、年々着実に防災意識が高まるとともに、連帯感も生まれ、訓練もスムーズにできるようになった。

平成 20 年度の自主防災訓練は、「住民の安否確認」と「高層マンション火災に対する訓練」を主要なテーマに、住民全戸 363 世帯を対象として、平成 20 年 11 月 9 日（日）9:00～11:45 に実施。マンションの防災訓練では、19 年度と同様に、マンション住民の自主的な要望を重視し、自治会と協力して行った。

### 【自主防災会の経緯と活動状況】

平成 13 年 4 月：汁谷第一自治会設立と同時に自主防災会結成（汁谷町内会を、汁谷第一自治会と汁谷第二自治会、光が丘町内会に三分割し独立した）

平成 15 年 11 月：災害図上訓練（石山前自治会長、自主防災会、自治会役員、ブロック委員を中心に、地域独自の問題点を考え、話し合い避難所の富士見台小学校は急な上り坂の上にあるため、避難が困難な状況の場合どうするか、対策を立てておく必要  
以後の訓練の基礎ができ、汁谷第一公園を第一避難所とすることで動き出した）

平成 16 年 11 月：基礎養成訓練（三角巾の使い方、応急タンカの作り方、ガレキの下敷きになった人の救出法、消火器の使い方、三角バケツによる初期消火訓練）

- 平成 17 年 11 月：基礎養成訓練（上記に加えて起震車による震度体験、煙中体験）
- 平成 18 年 10 月：防災器具庫完成（汁谷第一公園に各関係機関の協力により設置）
- 平成 18 年 11 月：地域密着型防災訓練（各戸訪問安否確認を主テーマに汁谷第一公園で実施）
- 災害対策調査票作成（事前に、個人情報保護を配慮し、自治会独自に作成 各戸に配布し、記入後、約 90%回収 自治会員の人数及び年齢構成の把握）
- 安否確認訓練（ブロック委員中心の安否確認班が各戸訪問し、結果を記録した名簿を本部に提出）
- 情報班・避難誘導班の活動による、要援護者や子どものいる家族の避難訓練（車椅子や徒歩で公園まで安全に誘導し、避難家族名簿を作成）
- 救出・救護訓練（ジャッキ・パール等使用）
- 給食班による炊き出し訓練（アルミ缶を使用）
- 富士見台消防団による放水訓練
- 平成 19 年 11 月：地域密着型訓練（安否確認、高層マンション火災想定訓練）
- 安否確認訓練（汁谷第一公園に本部設置。要援護者を収容する場所とした）
- 『ヴィークステージ茶屋が坂』を中心とした訓練
- 千種消防署のはしご車による救出訓練
- マンション前で、三角巾の使い方・消火器による初期消火訓練等実施
- マンションにおける訓練は、「公園に大勢集合できるのか？」  
「耐震構造の建物から外に出るとかえって危険にさらされるのではないか？」などのマンション住民からの指摘もあり、マンション内で自主的に話し合い、提案をまとめ、自治会と協力して実施
- 平成 20 年 2 月：ベンチ型の防災用カマド設置（汁谷第一公園）
- 平成 20 年 4 月：発電機・パソコン・プリンター・コピー機の購入決定（総会で承認）
- 平成 20 年 4 月 13 日：防災用カマドの火入れ式（汁谷第一公園）
- 「自治会ふれあいまつり」の前に、行事ボランティアも協力しスープを作り、試飲。平成 20 年度中にもう 1 基増設予定

平成 20 年 9 月：要援護者確認票作成（リストアップ 12 名）

【平成 20 年度 地域密着型訓練（安否確認、高層マンション火災想定 of 訓練）  
《打ち合わせ》

8 月 3 日・24 日、9 月 7 日 = 『リーデンススクエア茶屋ヶ坂』の理事会と自治会の話し合いにより訓練内容等を決めていく。

8 月 19 日、9 月 4 日、10 月 2 日 = 千種消防署と自治会で、事前調査・リハーサル・打ち合わせ等を行う。

9 月 28 日、10 月 11 日 = 実行委員会を開き、スケジュール・班のリーダーや班員・その他細部について決定する。

10 月 15 日 = 自治会定例会・役員会。

11 月 8 日 = 最終打ち合わせ・準備。

《防災訓練実施状況》

平成 20 年 11 月 9 日（日）

<p>9:00 大地震発生、（自動車にて町内を回り）スピーカーで訓練開始を告げる。 （2 名） &lt; 訓練開始 &gt; 各家庭では地震発生 of 対処方法を、予め考え実行してみる。</p>	
<p>汁谷第一公園 / 本部を中心とした訓練</p>	<p>リーデンススクエア茶屋ヶ坂を中心とした訓練</p>
<p>9:05 本部開設（汁谷第一公園） 本部テントを張る 机・いす・名簿等の準備 本部活動開始 救護班開設 発電機のテスト開始 = パソコン等に接続 安否確認 = 2B、4B を除く安否確認班（各ブロック委員）は本部へ ブロック員の名簿を受け取る 各ブロックに戻る 各戸訪問（安否確認） 終了次第、結果を本部へ報告</p>	<p>9:05 2B、4B では、各ブロック委員を中心に各戸の安否確認をして、結果を本部に連絡 10:00 『リーデンススクエア茶屋ヶ坂』において防災訓練開始 富士見台消防団により見守り開始 10:05 はしご車進入開始 10:10 消防隊本部開設 リーデンススクエア茶屋ヶ坂の代表者より、避難報告と救助・消火要請があつて、消防隊訓練開始</p>

<p>2B、4B も安否確認の結果を各々本部へ報告する 安否確認報告をパソコンに即座に入力し、印刷 - 別紙参照 - 避難誘導活動 = 2B、4B を除く避難誘導班（全ブロック員）は本部へ到着し、本部活動等の活動をする 要援護者宅を訪問し、車椅子3台を使用して、本部へ搬送する（安否確認後、自宅へ搬送）</p> <p>10:00 安否確認訓練終了 = 本部に3名の係を残し、『リーデンススクエア茶屋ヶ坂』に合流</p> <p>11:45 本部解散 &lt; 防災訓練終了 &gt;</p>	<p>10:25 はしご車による、7F ルーフバルコニーからの救助訓練開始（2名×2回 / 計4名） 消防車による消防訓練 消防隊、ダミー人形を使い救助訓練</p> <p>10:40 エントランスにて仕切りボードを破る体験 AED を使ったの訓練説明 初期消火訓練（訓練用消火器30本使用） 応急タンカの作り方と使い方</p> <p>11:30 講評・・・千種消防署、消防団長 &lt; 『リーデンススクエア茶屋ヶ坂』における訓練終了 &gt;</p>
--	--

注：B = ブロック。1～9までである。「2B」「4B」は高層マンション。

### 《今回の訓練の成果》

#### 本部

- ・ 発電機によるパソコン等の操作  
安否確認報告を入力し、集計結果を瞬時にプリントアウトでき、自治会役員の安否の把握が速やかに報告可能となった。（別表）
- ・ パソコンには要援護者の個人情報もインプットしており、災害時には、救急隊および避難誘導班・救護班に対し情報提供可能な体制が整った。
- ・ 要援護者の搬送  
車椅子3台を使用し、要援護者を本部へ搬送する。本部の救急・救護班で待機の看護師（ボランティア）による問診等を実施する。声かけにより安心感が生まれることや、防寒用毛布やひざ掛けの準備の必要性などを知る。
- ・ 車椅子について  
自力で坂道を上ろうとすると大変である。女性一人で押していくの力が要る。乗ったり、押したりする体験や組立等、幅広く取り入れていきたい。

## マンション火災による訓練

- ・ マンション 7F ルーフバルコニーからはしご車による救助  
親子 2 名ずつ 2 回、計 4 名が体験し、無事降りた時は周囲から拍手が起きた。
- ・ ベランダの仕切りボードを破る  
当初計画はベランダのボードを破って隣へ移り、避難ハシゴを降りることを考えたが、プライバシーの問題や仕切りボード復元費用等の事情で中止した。そこで、1 階エントランスで同じボードを 5 枚準備し、破ることとした。女性・小学生でも容易に破ることができたので安堵した。
- ・ 本年度も高層マンションでの消火訓練をすることにより、マンション内の防災意識が高まり、住民相互の信頼関係も深まった。

### 【「防災力」向上のための将来構想と今後の訓練について】

今後は、汁谷第一公園を第一次避難場所と考えた場合、避難テント・簡易トイレやドント式トイレの設置、医者・看護師・薬品・食料・水等々の支援体制を充実させていきたい。また、大災害時の連絡網の整備として、防災無線の設置ないしトランシーバーの活用(自治会役員とブロック委員宅)等も考えたい。そのために、地域住民・関係機関のご理解とご支援・協力を要請していきたい。

大災害にあえば、誰でも、何から手をつけていいのか、また、何をしたらいいのかと、戸惑いと不安が交錯し、自失になってしまうことは覚悟しなければならない。そのとき防災訓練を幾度となく体験してきた人が、一人でも多くいれば、その人たちがリーダー役となり「防災本部を立ち上げ救助活動等に活かしていけるのではないか」と考える。

また、耐震性の高い近代マンションおよび一戸建て住宅の住民に対して「自分の家の室内は相当被害を受けていると思いますが、どのような境遇になっても人命を第一に考え、倒壊家屋からの人命救助活動等に積極的に参加していただきたい」ということ等、地域住民の『助け合い精神の大切さ』を共有し、高揚を図っていきたい。

今回の防災訓練で感じたことは、子どもも老人も皆がある程度楽しめる雰囲気づくりと訓練内容にすることも大切ではないかということである。

これからも、自治会の各世代が多数参加する防災訓練を積み重ね、「防災力」を高めていきたい。

最後に、千種消防署・富士見台消防団の方々にお礼と、これからもご指導、ご協力賜りますようお願いを申し上げ、報告といたします。

## 平成20年度 汁谷第1自治会 防災訓練 安否確認結果

	出発時間	報告時間	所要時間	総世帯数	確認世帯数	未確認世帯数	
1 B	9:05	9:31	0:26	9	8	1	
2 B	9:30	9:58	0:28	102	94	8	
3 B	9:08	9:32	0:24	24	22	2	
4 B	9:20	9:48	0:28	36	16	20	W
				49	26	23	F
				79	53	26	S
5 B	9:08	9:24	0:16	8	5	3	
6 B	9:12	9:44	0:32	16	15	1	
7 B	9:06	9:23	0:17	15	8	7	
8 B	9:03	9:20	0:17	12	12	0	
9 B	9:05	9:15	0:10	13	13	0	
計				363	272	91	
				74.90%			

注：B=ブロック。1～9までである。「2B」「4B」は高層マンション。

# 汁谷第一自主防災会防災訓練

H20.11.9



汁谷第一公園内の現地本部テント



現地本部において安否確認報告をパソコンへ入力



購入配置したパソコン・プリンター



発動発電機



**安否確認・避難誘導**



**車椅子による要援護者の搬送**



**車椅子による要援護者の搬送**



**自治会内の高層マンションの  
訓練（はしご車による救出訓練）**



**自治会内の高層マンションの  
訓練（応急担架による搬送訓練）**



**自治会内の高層マンションの  
訓練（初期消火訓練）**